

はじめに

日本は、台風や地震、大雪、洪水、火山噴火などの自然災害が発生しやすい国土です。1995年には阪神・淡路大震災が起こり、未曾有の大災害となりました。しかし、これにとどまらず、2004年には新潟県中越地震、2005年には福岡西方沖地震、2011年には東日本大震災、2016年には熊本地震と、立て続けに大きな震災に見舞われました。この間にも地震は日本各地で起き、大きな被害をもたらしています。そして、今年元日には、能登半島地震が発生し、甚大な被害が出ました。また、水害や火山噴火なども各地で発生しています。2017年の九州北部豪雨、2019年の佐賀豪雨も記憶に新しいところです。

こうした自然災害に見舞われたとき、自分はどうすればよいのか、自分にできることは何なのかをしっかりと考え、行動できることは、命を守ることに繋がります。どんなに困難な状況にあっても、他者と協力して解決策や改善策を生み出す。子供たちにこうした「生きる力」を育てていくことこそが、学校の役割だと言えます。

そうした役割を踏まえ、本校では「一人一人が意識して学びの道にいそしむ西郷っ子」の育成を学校教育目標とし、その具現化に向けて日々教育活動に邁進しています。校内研究においては、昨年度から算数科に焦点をあて、研究主題を「主体的に学び、解決に向かって進んで表現する児童の育成～算数科における『算数チャレンジ』を生かした学習指導を通して」としております。昨年度の研究成果をもとに、「算数チャレンジ」のよさを生かしながら、表現力の向上を意識した指導を行うことで、主体的に学び、進んで自分の考えを表現する児童の育成ができると考え、職員一丸となって取り組んでまいりました。元来、素直で真面目な西郷小学校の児童は、授業実践を重ねるごとに少しずつ変化を見せ始めました。粘り強く課題に取り組み、友達と協力しながら解決策を生み出そうとする姿、困難な場面でも対話を通して解決への糸口を見つけ出そうとする姿、自分なりに表現しようとチャレンジする姿。こうした姿が見られるようになったのも、研究主任を中心に、本校教職員が同じベクトルで研究に取り組んできた成果だと自負しています。まだまだ課題は山積していますが、教職員も対話を大切にしながら互いに学ぶ姿勢を忘れずに、今後も研究を深めていきたいと思えます。そして、児童がたくましく生きる力を身に付けられるよう、全職員で努力を続けていく所存です。

結びになりますが、本校の校内研究推進に当たり、遠路はるばるご来校いただき、熱心に御指導いただいた陰山ラボ代表 陰山 英男 先生、温かく丁寧な御指導、御助言を賜りました東部教育事務所 指導主事 吉岡 功太郎 先生に心から感謝申し上げます。

令和6年1月吉日
校長 貞包 典子